

議事等	議事要旨
建設部長挨拶	先日、10月の観測史上最大の時間63mmの雨を記録し、市街地で一部道路冠水が発生したことから、佐賀平野の地形特性による内水氾濫のリスクが改めて浮き彫りとなった。委員会では気候変動への対応策を議論してきており、今後は「溜める対策」の加速化・深化が重要である。本日は最終回として、これまでの意見を反映した基本計画(案)を提示し、流域治水の概念のもと関係者が連携した実効性のある計画にしたい。
議事説明	【事務局より1)～4)の説明】 1) 目的とスケジュール 2) 第4回検討委員会の意見等 3) 排水対策基本計画の構成 4) 排水対策基本計画(案)
質疑応答 排水対策基本計画(案)	1「表紙」について 満石委員) 表紙は浸水状況写真のほうが排水対策のイメージに合うのでは。 委員長) 佐賀市らしい水辺空間のイメージが望ましい。 事務局) 「水と生きるまち」をイメージした図を採用したが再検討する。 2「資料の見やすさ・図表」について 委員長) 図表には、文字の大きさに留意して出典を記載して欲しい。p52の浸水面積の表は、資料編p66,67の浸水想定図を拡大して両者を見比べられるようにして欲しい。 武藤委員、式町委員) p59の行動計画表が小さく見づらい。 満石委員) p6の断面図に記載の国道205号は(208号の間違いではないか。 武藤委員) p52「検討しています」という表現は「検討していきます」など前向きに。 事務局) 修正する。 3「市民向け要約版」について 森委員) 市民向けの要約(ダイジェスト)版を作成して欲しい。基本計画は専門的で市民には読みにくい。市民に向けて分かりやすく伝えるべき。 式町委員) 教育現場用、大人向けなど複数種類あってもよい。 小城原委員) 市民が主体的にどう行動すべきかを強調したものが望ましい。 委員長) 既存のハザードマップ更新や防災教育資料に組み込む形で活用すれば効率的。 事務局) 市民目線の資料を作成していく。老若男女が理解できるよう工夫する。 4「p41 地域コミュニティとの連携」について 小城原委員) 十間堀川の清掃が住民の高齢化で困難になり泥やごみが堆積。水路全体の浚渫が必要。地域貢献企業といって企業にも参加していただいている。 熊井委員代理) p41に「地域コミュニティ形成の場」が抜けている。河川清掃活動で延べ8万人が参加し地域コミュニティ形成の場となっていることから記載して欲しい。また、市民だけではなく民間企業も参加しているのでそれを表記して欲しい。「民間」という言葉を使うのが難しいなら「市民等」でもよい。 委員長) 既存ストックの活用は、一番効率の高い上乘せ対策と思う。 事務局) 十間堀川は重要水路である。水路の浚渫などの維持管理は足元対策の強化として重点的に行っていく。「地域コミュニティ形成の場」は資料に記載する。企業等パートナー制度を創設し、現在62社が登録。これについても記載する。 5「p48 上乘せ対策」について ナルモン委員) 上乘せ対策は、いつ頃何をやるのか。 事務局) 公共施設での貯留は来年度から関係機関と調整開始する。調整池の機能向上は高木瀬の大和工業団地調整池を寄付受納しており、来年度設計を開始する。足元対策は浸水常襲地区で側溝浚渫・水草除去を強化していく。雨水貯留タンクはまずは公共施設から来年度より設置を開始していく。

	<p>6「p54 概算事業費」について 委員長) 概算事業費は便益との関係が示されないと意味が薄い。B/C(費用便益比)を示すべき。</p> <p>事務局) 中期対策では B/C=3.8 を算出済みだが全体は未算出。便益の表し方は検討中であり、今後委員長と相談の上、掲載可否を判断したい。</p> <p>7「p55 自分事化に向けて」について 委員長) 市がいくら働きかけても市民が自分事化としてとらえなければ流域治水は実現しにくい。「自分事化」に自助・共助・公助のつながりや連携を加えるべき。市民が主体的に動く視点を補足してほしい。 式町委員) 防災は平時の活動が大切であり、防災士の活動紹介など、市民や団体、企業に訴える記述があっても良い。 小城原委員) 市民が具体的にどう行動したらいいのか判りやすく記述してほしい。</p> <p>事務局) 防災関係は防災部局と相談していく。「自分事化」については、市民の具体的な取り組みが不足しているため追記する。</p>
今後の予定	<p>事務局) 本日、議論いただいた内容をもとに、排水対策基本計画の案をまとめ、11月に委員長から市長へ報告する。その後、12月に市議会への報告、1月にパブリックコメントを実施し、調整を行った後、委員長の最終確認を経て年度内に策定する予定である。最終調整については事務局と委員長に一任していただく。</p>